

西東京 女性たちの歩み

元市議会議長、校長、医師……

NPOが聞き取り

西東京市の街づくりや教育・医療現場などで活躍した女性たちを記録にとどめようと、市内のNPO法人「生活企画シエフリー」が、女性史の編さん作業を進めている。生活に根ざした女性の視点からまとめ、来年秋の完成を目指す。表舞台に登場しなかった女性たちも掘り起こそうと、多くのエピソードを拾い上げるため、広く編集委員を募集している。

(広中正則)



女性史の編さんに向けて資料集めなどに奔走する生活企画シエフリーのメンバーら

このNPOは2004年4月、女性問題の学習グループを母体に設立。子育てや家族介護など、家庭での男女の在り方をテーマにセミナーや講座を開いている。

女性史の制作は、1975年の国際婦人年をきっかけに各地の自治体で進んだが、合併前の旧田無市や旧保谷市では、機運が盛り上がりなかった。最近では、合併に伴って資料が散逸するケースが目立ち、戦前や戦後を知る語り部の高齢化も心配されている。

このため、構想を温めていたNPOのメンバーが

「今を逃すと、女性のこれまでの歩みが完全にうずもれてしまう」と決意。理事長のフリー編集者、渡辺美恵さん(63)や、主婦の斎藤三枝子さん(62)ら5人が昨年6月頃から準備を始めた。西東京市から年間20万円の補助金を受け、男女平等推進係の職員にも協力してもらっている。

これまでに、旧田無、旧保谷の市史や市報などをもとに、女性を取り巻く動きと街の動き、国内外の出来事をまとめた年表の作成を進めている。

さらに、旧田無市議会初の女性議長や、全国に先駆けて旧田無市が創設した男性職員も育児時間を取得できる制度にかかわった市職員組合の女性幹部、老舗和菓子店を切り盛りするなどしてきた70〜80歳代の女性にインタビューを実施。今後、小中学校の初代女性校長、市内初の女性医師や助産師、定年まで会社勤めをした女性らを探し出し、聞き取りをする意向だ。

NPOのメンバー以外にも、多様な観点から証

言や資料を集めるため、6月13日〜7月4日に開く全4回の「女性史編さん講座」(定員20人)の受講者から編集委員を募り、7月に「編集する会」を正式に結成して作業を本格化させる。

渡辺さんは「女性の生き方に光をあてると、街や社会がどう動いてきたか浮かび上がってくる。埋もれた女性史の脈を掘り起こすために、力とアイデアをいただきたい」と参加を呼びかけている。問い合わせは、NPO(☎042・467・2008)へ。